

まちあるき MAP

ようこそ
わがまち まつしま



松島地区コミュニティ協議会

〒760-0067 高松市松福町2丁目15-24
TEL 087-821-0435

- 高松市まちづくり交付金事業
- 赤い羽根共同募金の助成を受けています。



1 今橋と杣場川



江戸時代に城下町と松島本丁筋を結ぶ、杣場川に架かっていたのが今橋。「杣」(そま)は森林・材木のこと、川が貯木場であったことを示す。ことでん志度線の始発駅が今橋駅で、明治44年に開設。

江戸時代に城下町と松島本丁筋を結ぶ、杣場川に架かっていたのが今橋。「杣」(そま)は森林・材木のこと、川が貯木場であったことを示す。ことでん志度線の始発駅が今橋駅で、明治44年に開設。

2 松島の街通り

江戸時代、高松城からの五街道のひとつ、志度(阿波)街道が松島本丁筋の道。戦前から営業を続ける商店も今に残る。途中に江戸時代の砂糖製造開発者2名を祭神とする向良神社がある。



3 東浜村役場の跡



浜村は高松市と合併。

明治23年、松島・塩上・花園に及ぶ旧東浜村と福岡下村の合併で香川県東浜村が発足、その村役場がこの付近にあった。大正10年1月、東浜村は高松市と合併。

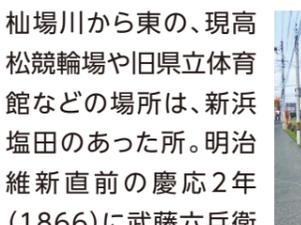
10 沖松島の塩釜さん跡



市下水道施設管理センター北西部付近に、天保9年(1838)、宮城県塩釜から塩椎神をお迎えしたのに始まる。塩田の安全と発展を祈願する塩釜神社は、昭和38年に現在地(福岡町4丁目2番)へ移った。大祭日は現在、10月第2土日に行われる。船玉社や徴発軍馬之碑などがある。

市下水道施設管理センター北西部付近に、天保9年(1838)、宮城県塩釜から塩椎神をお迎えしたのに始まる。塩田の安全と発展を祈願する塩釜神社は、昭和38年に現在地(福岡町4丁目2番)へ移った。大祭日は現在、10月第2土日に行われる。船玉社や徴発軍馬之碑などがある。

11 高松新浜塩田



杣場川から東の、現高松競輪場や旧県立体育館などの場所は、新浜塩田のあった所。明治維新直前の慶応2年(1866)に武藤六兵衛が創設した塩田だが、昭和34年までには廃止された。新浜塩釜神社がある。



12 八丁土手



松平頼重公による春日・木太・沖松島の干拓(寛文7年1667頃)のため、杣場川付近から東に築かれた土手といわれる。8丁(約872m)あったので八丁土手。現存する古地図では享保・元文期(1716~41)の地図で確認することができる。

松平頼重公による春日・木太・沖松島の干拓(寛文7年1667頃)のため、杣場川付近から東に築かれた土手といわれる。8丁(約872m)あったので八丁土手。現存する古地図では享保・元文期(1716~41)の地図で確認することができる。

4 松島神社(三宝荒神)



生駒高俊公の治世の17世紀に創祀。明治43年に現在地へ移転。「松島の荒神さん」で親しまれてきた。「かまど」の神と「海・水」の神を祀る。大祭日は、7月27・28日。

生駒高俊公の治世の17世紀に創祀。明治43年に現在地へ移転。「松島の荒神さん」で親しまれてきた。「かまど」の神と「海・水」の神を祀る。大祭日は、7月27・28日。

5 千代橋

松島本丁筋の通りが御坊川に架かる橋は、もと木製の太鼓橋であったという。明治12年に石の橋となった際、「千代橋」の名称に。昭和48年に鉄筋コンクリート製に。橋のたもとに旧高松藩の船番所といわれる建物が今も残る。



6 千代橋の歌碑



明治12年に石橋となったことを記念して建立された歌碑。もと橋中央部にあったが、昭和48年に消防屯所横に移された。明治期の著名な学者や歌人による、千代橋への想いを歌ったもの。

明治12年に石橋となったことを記念して建立された歌碑。もと橋中央部にあったが、昭和48年に消防屯所横に移された。明治期の著名な学者や歌人による、千代橋への想いを歌ったもの。

7 御坊川の井堰跡



明治32年から平成3年まで、千代橋から100m上流に井堰があった。御坊川の塩分を含んだ水は田畑の水として使えず、地元の人々の人

明治32年から平成3年まで、千代橋から100m上流に井堰があった。御坊川の塩分を含んだ水は田畑の水として使えず、地元の人々の人

8 丹波の渡し

幕末期から昭和初期にかけて詰田川の現ことでん線路付近に渡し船があった。その経営者の浜田氏が丹波の国出身だったため、このように呼ばれた。沖松島の柴田氏も関わった。ただ干潮時には浅瀬を渡る人もいたという。



9 高松古浜塩田



詰田川西岸や現イオン高松東店付近には、沖松島を取り囲むように塩田があった。元禄元年(1688)築造といわれ、讃岐の近世塩田のなかでも大変古い歴史がある。西の新浜塩田とともに昭和34年までには廃止。

詰田川西岸や現イオン高松東店付近には、沖松島を取り囲むように塩田があった。元禄元年(1688)築造といわれ、讃岐の近世塩田のなかでも大変古い歴史がある。西の新浜塩田とともに昭和34年までには廃止。

松島地区の歴史概要

江戸時代に入る前、高松城下の東端杣場川を越えた東地域はまだ海域であった。河川によって土砂が堆積するなか、17世紀の生駒高俊公の治世に西島八兵衛による新川以西、洲端までの新田開発が行われた。その後、松平頼重公の治世にはその北部の春日・木太・沖松島の干拓がなされていく。

旧志度街道であった松島本丁筋は、高松城に隣接する城外の商業・手工業地区として大いに繁栄し、周辺は畑作を中心とする農業地帯、そして北部は近世塩田地帯として重要な地域となった。現在は住宅地域・商業地域であり、大規模公共施設や教育施設の多い地区という特色も持っている。

なお地名「松島」の名称は江戸時代中期の『讃岐三代物語』等に初めて登場する。

12カ所以外の訪れたい史跡

- 向良神社
- 今橋毘沙門天堂
- 御坊川船番所(川口番所)跡
- 新橋
- 野間道開通記念碑
- 玉川小学校跡碑
- 千代橋石道標
- 新浜塩釜神社
- 塩釜神社
- 福浜小学校跡碑

※裏面の史跡案内図をご覧ください。